学校番号	３０８

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史科	科目	地理探究	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	地理探究（山川出版社） 詳解現代地図最新版（二宮書店）						
副教材等	図説地理資料　世界の諸地域 NOW 2025（帝国書院）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・本科目では、いま、世界で何が起きているのか、そして世界はどこに向かおうとしているのか、「地理総合」で学んだことを土台にして、現代世界のさまざまな課題や動向について、正しく理解し、的確に判断する能力を身につけることを目指しています。
・重点は２点です。１点目は、世界の現実を分析、整理すること。そのために教科書だけでなく、幅広い情報を扱います。それらを総合的にとらえ、考察することで、地理的なものの見方、考え方を養ってほしいです。２点目は、主体的に取り組むこと。授業で取り扱うさまざまな社会課題に対し、課題の解決に進んで参加しようと取り組んでください。そのために探究活動を多く取り入れる予定です。それらの活動を通し、課題解決能力を養い、国際社会に主体的に生きる人になってくれることを期待しています。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
世界の現実を分析、整理し、総合的にとらえ、考察することで、地理的なものの見方、考え方を養う。
【思考力、判断力、表現力等】
社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	地理に関わる諸事情に関して、世界の空間的な諸事情の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解する。 地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技術を身につけるようにする。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事情について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して養われる日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様や生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	自然環境	・地形 ・気候と生態系 ・世界各地の自然と生活	a:自然環境について理解し、まとめることができる。 b:自然環境について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 c:自然環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に考察しようとしている	定期考査など	定期考査、レポート、プリントなど	活動観察、プリントなど
	資源と産業／貿易	・農林水産業 ・資源・エネルギー ・貿易・観光	a:自然と産業や貿易について、理解し、まとめることができる。 b:　自然と産業や貿易について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 c:　自然と産業や貿易について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に考察しようとしている。	定期考査など	定期考査、レポート、プリントなど	活動観察、プリントなど
2	アジアの地誌	・中国 ・朝鮮半島 ・東南アジア ・南アジア ・西アジア、中央アジア	a:各地域の歴史的背景や経済、鉱工業、人口、民族、自然、農牧業について、経済成長と関連付けながら、その特色や課題を理解し、知識として身に付けることができる。 b:各地域の歴史的背景や経済、鉱工業、人口、民族、自然、農牧業について、経済成長と関連付けながら考察することができる。 c:各地域についてほかの地域と比較しながら関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	定期考査など	定期考査、レポート、プリントなど	活動観察、プリントなど

	ヨーロッパ。アメリカの地誌	・ヨーロッパ ・ロシア ・アングロアメリカ ・ラテンアメリカ	a:各地域の歴史的背景や経済、鉱工業、人口、民族、自然、農牧業について、経済成長と関連付けながら、その特色や課題を理解し、知識として身に付けることができる。 b:　b:各地域の歴史的背景や経済、鉱工業、人口、民族、自然、農牧業について、経済成長と関連付けながら考察することができる。 c:各地域についてほかの地域と比較しながら関心を高め、意欲的に追究しようとしている。	定期考査など	定期考査、レポート、プリントなど	活動観察、プリントなど
3	これからの日本～2050年の日本の姿～	・自然災害に強い国土を目指すには ・産業の変化と持続可能な成長 ・人口減少社会を活性化するためには ・多文化共生社会の実現を目指して	a:日本が抱える地理的な諸課題を探究する過程において、主体的に課題を設定して探究するという過程を通し、課題解決への視点や方法を身に付けることができる。 b:日本が抱える地理的な諸課題の形成要因について考察し、その過程や結果、今後の改善策について適切に表現することができる。 c:さまざまな視点から多面的・多角的に分析・考察し、仮説の検討を進めることにより、将来の国家像について積極的に展望しようとしている。	定期考査など	定期考査、レポート、プリントなど	活動観察、プリントなど

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度